

ハイギョ (肺魚)

分類：ハイギョ目 ハイギョ科
 学名：*Protopterus annectens*
 英名：Mud fish

肺魚類は3億5千万年前の古生代デボン紀のものと思われる化石が発見されているが、現生種はアフリカ、南アメリカ、オーストラリアの淡水域に分布し、良く水草の繁茂した沼沢地や浅い沼に生息している。体型はウナギ型で小さな円鱗で被われ、胸鰭と腹鰭は鞭状で1対の肺を有する。歯は口の内部の大きな骨板上に並び、固い物を噛み砕くに適している。鼻孔は上唇の下側にある、乾期に沼の水が涸れると皮膜で体を包み、どろの中に潜り夏眠をするが、このときの栄養分は筋肉組織を消耗させてこれにあてる。雨期になると皮膜がとけて活動を始めると共に繁殖期にもあたる。日中は水草の陰か、ドロの中に隠れているが、夜間水面に頭をだして空気を吸い、魚類、甲殻類、軟体動物などを捕食する。単独で行動し縄張り意識が強い。アフリカには首記の他に、コンゴハイギョ (*P. dolloi*)、ニシハイギョ (*P. amphibius*)、エチオピアハイギョ (*P. aethiopicus*) が分布する。



エチオピアハイギョ



ニシハイギョ



サバヒー

分類：ニシン目 サバヒー科
 学名：*Chanos chanos*
 英名：

高知県以南の台湾、フィリピンから印度洋、紅海にかけての暖海に広く分布し、日本では数が少ない。口は小さく、歯がなく小骨が多い。沿岸性の海水魚であるが、体の一部がはみでるような浅瀬や淡水域に侵入することもある。台湾、フィリピン、インドネシア、ハワイ等では、春や秋の頃沿岸近くに大きな群をなしている稚魚を採集して養殖が盛んに行われている。成長がすこぶる早く、体長180 cmに達するものもあるが、普通60 cm位である。現地でカツオやマグロ類の餌として用いられるほか、重要な食用魚でもある。フィリピンではバンゴス (*Bangos*) と呼んでいる。

